令和８年11月19日
都市戦略整備委員会
都市戦略局都市再生課

「北九州２０４３」の取組の進捗と推進について

１　「北九州２０４３」のポイント

・民間資本の活用
・〔小倉〕Ｂａｙエリアの**交通利便性や大規模な公有地を活用した集客機能の強化**
・〔小倉〕Ｃｉｔｙエリアの**人情味ある路地を残しながらの大通り沿いの開発促進**
・〔小倉〕Ｒｉｖｅｒエリアの**自然や歴史を生かした憩いの空間の創出**
・〔黒崎〕**産業や技術と生活が近接する強み**を生かし、**未来の生活モデルの拠点を創出**

２　これまでの取組（市民等との議論）

市民や有識者との議論を重ねるため、以下の取組を実施。

（１）次世代まちづくり構想会議
・有識者や経済界、次世代を担う若手で構成される会議をこれまでに２回開催。



次世代まちづくり構成会議　構成員（５０音順・敬称略）

氏　名	所　　属
大島　まな	公益財団法人 アジア女性交流・研究フォーラム 理事長
小笠原　浩	株式会社安川電機 代表取締役会長兼社長
唐池　恒二	九州旅客鉄道株式会社 相談役
清田　徳明	ＴＯＴＯ株式会社 代表取締役会長
津田　純嗣	北九州商工会議所 会頭
中田　昌宏	日本製鉄株式会社 常務執行役員 九州製鉄所長
野嶋　紗己子	ＰＩＶＯＴ株式会社 ＭＣ／プロデューサー
宮坂　春花	株式会社Ｍａｈａｌ．ＫｉｔａＱ代表取締役（Ｚ世代課パートナーズ）
安永　卓生	九州工業大学 学長
柳井　雅人	北九州市立大学 学長

●第１回（８月２４日）の主な意見

・２０４３年や、その先も見据え、**持続可能な都市を構想すべき**。
・フィジカルＡＩの実装都市にするなど、**他都市と違いを出すことが勝ち筋**。
・**遠方からも来訪を促せる集客拠点が必要**。
・民間投資を呼び込むには**「規制緩和・特区活用」と「税制・財政措置」がカギ**。
・**市民活動や市民参画の余地がある空間づくり**や、**協創のプロセスが重要**である。
・若者が社会の変化や課題を身近に感じ、**自分なりの疑問を持てる環境をつくるべき**。
・東京等との行き来をする「Ｏターン」のような関係を保ち、**学びを仕事や新産業に繋げるべき**。

●第２回　１１月１８日実施

【テーマ】　・２０４３年に、北九州市はどんな都市であるべきか
　　・小倉・黒崎の役割や期待されるプロジェクト　　など

（２）市民等

①アンケート

・市民アンケート(Ｗｅｂ)　　約 1,700 名
・ＴＧＣ北九州来場者アンケート　約 1,000 名
・Ｂａｙエリア街頭アンケート　　約 3,000 名





●多かった項目(市民アンケート)

【小倉】

・Ｂａｙエリア　　：ワクワクする体験　（ライブ・フェス、ナイトイベントなど）
・Ｃｉｔｙエリア　：まちの回遊　　（歩いて巡る、魅力的な店舗・サービスなど）
・Ｒｉｖｅｒエリア：まちなかの憩い（水辺・緑、散策、滞在空間など）

【黒崎】

・暮らしの高質化（魅力的な店舗・サービス、子育て環境、緑・木陰など）

②ワークショップ

・若者や働く女性、地域住民など、属性に応じたワークショップを計７回開催。









３　今後について

引き続き、市民・有識者との議論を重ねるとともに、民間事業者へのヒアリングを行い、可能なものからプロジェクトを具体化していく。